

令和4年度長岡市水道事業の決算概要について



決算の概要は、次のとおりです。
以下の項目ごとに解説していくね！

※下線箇所をクリックすると、そのページに移行します。

1 給水状況 . . . 2ページ

令和4年度末における給水状況は、給水人口242,706人、年間配水量3,266万 m^3 、そのうち料金収入の対象となった水量（有収水量）は2,785万 m^3 となりました。前年度と比較し、給水戸数は増加したものの、給水人口は2,136人減少しました。コロナ禍以前の社会に戻りつつある中、営業用と官公署用の使用水量は増加しましたが、病院用や工場用の使用水量は減少し、巣ごもり需要の低下や給水人口の減少の影響から生活用の使用水量が減少したため、年間配水量は34万 m^3 、年間有収水量は53万 m^3 の減少となりました。

ここでは、直近5年間の給水状況を踏まえ、令和4年度について説明します。

2 水道管や施設の整備（建設改良費） . . . 3ページ

安全で安心な水を安定的にお届けするために、令和4年度は28.2億円を投じて水道管の布設替えや耐震化、浄水場などの設備更新を実施しました。また、主要事業のうち大規模な与板・寺泊浄水場の妙見浄水場への統合事業では、送水管の布設や上除配水池送水管分岐工事、菖蒲川送水管推進工事実施設計などを実施しました。

ここでは、令和4年度に実施した建設改良事業について説明します。

3 財務諸表から見た財務状況 . . . 4ページ

水道水をつくるための収益と費用（消費税抜き）では、収益54.5億円に対し、費用は49.9億円となり、収支差引き4.6億円の純利益が生まれました。

事業収益は、基幹収入である給水収益（水道料金収入）の落ち込みにより、0.8億円（▲1.4%）減少しました。一方で事業費用は、物価高騰などの影響により浄水場やポンプ場の動力費が増加したほか、浄水汚泥処分などの委託料が増加したため、0.3億円（0.6%）増加し、純利益は前年度から1.1億円（▲19.3%）減少しました。

老朽化した水道管の布設替えや設備などの更新費用は、主に企業債（借入金）を財源としており、11.0億円を借り入れて事業を実施しました。

当市の財務状況については、3つの財務諸表（損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書）をもとに説明します。

4 水道料金とその使いみち . . . 7ページ

ここでは、皆さまからいただいた水道料金がどのように使われたのか、水道事業の特徴を踏まえて説明します。

（注）当資料の数値は、原則として単位未満で四捨五入しています。このため、決算書の数値と一致しない場合があります。

1 給水状況

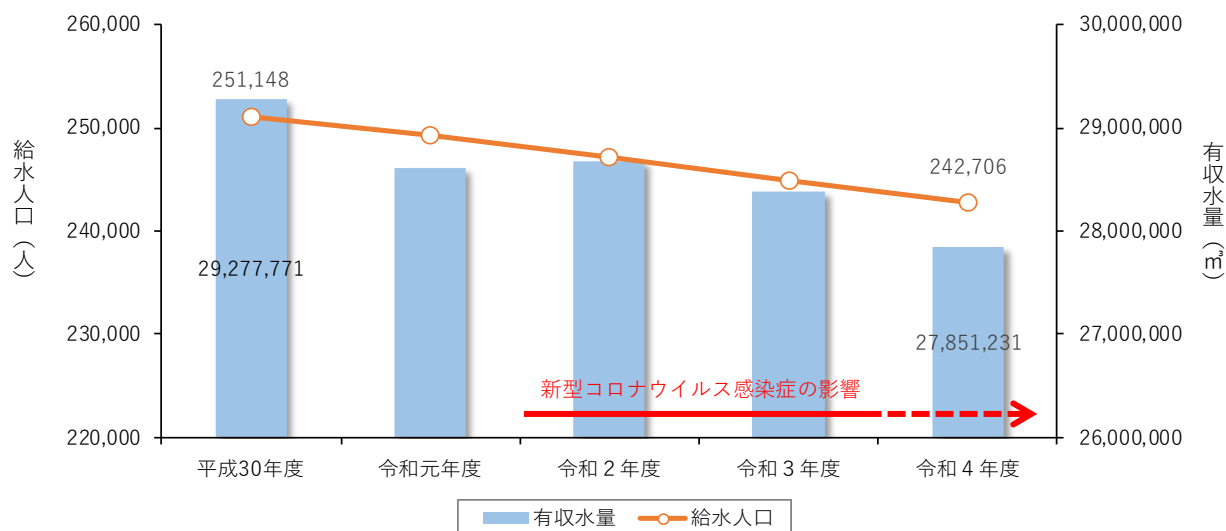
給水戸数は伸びているものの、給水人口及び有収水量ともに減少傾向にあります。有収率は、80%台半ばを推移しています。

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
給水人口 (人)	251,148	249,236	247,227	244,842	242,706
給水戸数 (戸)	105,868	106,126	106,753	107,340	107,591
配水量 (m ³)	33,924,731	33,002,013	33,165,470	32,995,621	32,657,994
有収水量 ^{※1} (m ³)	29,277,771	28,617,805	28,674,901	28,385,369	27,851,231
有収率 ^{※2} (%)	86.30	86.71	86.46	86.03	85.28

※1 配水量のうち料金徴収の対象となった水量

※2 配水量のうち有収水量の割合

給水人口と有収水量の推移



令和4年度決算における給水状況

◆給水戸数と給水人口

宅地造成や世帯分離などにより給水戸数は伸びていますが、少子化などによる自然減や、就職などで転出者が増えたことから、給水人口は減少傾向にあります。令和2年度以降は著しい減少傾向が見られ、毎年度2,000人を超えている状況です。

◆有収水量

生活用は、巣ごもり需要の低下や給水人口の減少により、使用水量が減少しました。業務営業用では、営業用と官公署用は増加したものの、学校用と病院用の減少幅が上回ったことにより減少し、工場用も同様に減少したため、全体で534,138m³減少(▲1.9%)しました。

人口減少は、水道水を使う人も減ることになり、有収水量に大きな影響を与えているんだ。これは水道料金収入に直結するので、今後も人口の動きには注視が必要だね。



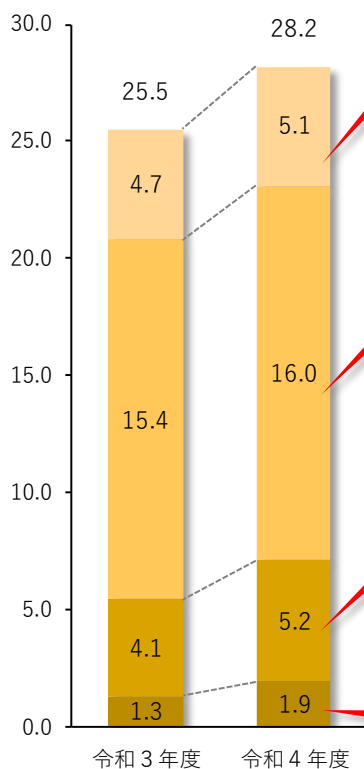
▽用途別有収水量の前年度増減比較 (m³)

用途別	令和4年度	令和3年度
生活用	▲401,676	▲386,617
業務営業用	▲63,395	70,041
工場用	▲80,173	16,204
その他	11,106	10,840

2 水道管や施設の整備（建設改良費）

水道事業は、浄水場や配水池、水道管など多くの施設や設備があります。これらの整備には多額の費用が必要となるため、「[長岡市水道事業経営戦略](#)」の投資計画に基づき、以下のとおり実施しました。

(億円) 建設改良費の前年比較



◆与板・寺泊浄水場の妙見浄水場への統合事業

妙見浄水場の給水区域を拡大するため、送水管の布設や施設などに係る実施設計を行いました。

- ・送水管布設工事
- ・上除配水池送水管分岐工事 ほか

◆水道管の更新、ポンプ場などの施設整備

漏水や濁り水を減らすため、老朽化した水道管の耐震管への布設替えや、老朽化した設備の更新を行いました。

- ・水道管布設替工事
- ・大島ポンプ場送水ポンプ更新工事 ほか

◆浄水場の施設整備

安全な水を安定的に供給するため、浄水場の設備などの更新工事などを行いました。

- ・妙見浄水場PAC注入設備更新工事
- ・越路浄水場導水管布設替工事 ほか

◆その他（事務費、資産購入費、業務施設費など）

令和4年度に実施した建設改良事業について

建設改良事業は、「[長岡市水道事業経営戦略](#)」に基づいて事業を展開しています。

主要事業の1つである与板・寺泊浄水場の妙見浄水場の統合事業は、送水管を布設したほか、上除配水池送水管分岐工事や菖蒲川送水管推進工事実施設計などを実施しました。

また、安全な水を安定してお届けするため、老朽化した水道管の布設替えや、設備などの更新を進め、水道管の布設替えにあたっては耐震管を採用しています。

既存の水道管や浄水場などの施設は、今後も適切な維持管理により長寿命化を図るとともに、計画的に更新を行っていきます。

なお、更新にあたっては、水の使用量の減少を踏まえ、適正な規模への見直し（ダウンサイジングなど）を行っています。



(妙見浄水場PAC注入設備更新工事)

蛇口をひねれば、安全でおいしい水が出る。この当たり前の光景を守るため、効率的な施設運用ができるよう計画的に整備する必要があるんだ。



3 財務諸表から見た財務状況

(1) 損益計算書

損益計算書は、水道事業がどのような経営活動によって、どれだけの経営成績（黒字or赤字）を上げたのかわ知るための財務諸表です。令和4年度決算の損益計算書は、次のとおりです。

▽損益計算書

(単位：百万円、税抜き)

科 目	令和4年度	令和3年度	増 減
営業収益 ① (皆さまからいただいた水道料金などの収入)	4,901	4,972	▲ 71
給水収益 (水道料金収入)	4,569	4,649	▲ 80
加入金、下水道受託収益、その他営業収益	332	323	9
営業費用 ② (きれいな水を作り、お届けするための費用)	4,791	4,740	51
原水及び浄水費、配水費、給水費、総係費、業務費	2,425	2,276	149
減価償却費、資産減耗費	2,366	2,464	▲ 98
営業利益 ③ (①-②) 通常の業務活動の損益の結果	110	232	▲ 122
営業外収益 ④ (国や一般会計などからの補助金)	551	556	▲ 5
他会計補助金	13	14	▲ 1
長期前受金戻入収益	497	503	▲ 6
受取利息及び配当金、雑収益	41	39	2
営業外費用 ⑤ (企業債の借入れに伴う利息などの費用)	205	224	▲ 19
支払利息及び企業債取扱諸費	200	219	▲ 19
雑支出	5	5	0
経常利益 ⑥ (③+④-⑤) 通常の業務活動の損益の結果に加えて資金調達等に関する損益の結果	456	564	▲ 108
特別利益 ⑦	0	0	0
特別損失 ⑧	1	0	1
純利益 ⑨ (⑥+⑦-⑧) 1年間のすべての損益の結果	455	564	▲ 109

損益計算書から見た令和4年度決算について

◆給水収益 (水道料金収入)

基幹収入である給水収益は、45億6,900万円となり、前年度と比べ8,000万円 (▲1.73%) 減少しました。なお、前年度の給水収益の減収額が4,000万円であったことから、この落ち込みは非常に厳しい状況と捉えています。

◆営業利益

給水収益が大幅に減少した一方で、営業費用は物価高騰などの影響で動力費や委託料などが大幅に増加したため、営業利益は1億1,000万円となり、前年度と比べ1億2,200万円 (▲52.5%) 減少しました。

◆純利益

給水収益の減少と物価高騰などの影響により、純利益 (黒字) は4億5,500万円となり、前年度と比べ1億900万円 (▲19.3%) 減少しました。

水道料金収入の減少、物価高騰による経費の増加など、水道事業を取り巻く環境は年々厳しさを増してきているね。今後、経費節減や業務の効率化などにより一層取り組み、健全な経営維持に努めていかないとだね。



(2) 貸借対照表

貸借対照表は、年度末において保有しているすべての水道資産がどのような財源でつくられたのか（資産＝負債＋資本）を表す財務諸表です。令和4年度決算の貸借対照表は、次のとおりです。

(単位：百万円、税抜き)

▽資産がどのような状態で、いくらあるのか

▽資産がどのような財源でつくられたのか

資産の部	令和4年度	令和3年度	増減	負債の部	令和4年度	令和3年度	増減
固定資産	50,136	49,574	562	固定負債	16,358	16,733	▲375
有形固定資産	111,731	109,165	2,566	企業債	14,976	15,310	▲334
有形固定資産減価償却	▲61,879	▲59,917	▲1,962	引当金	1,382	1,423	▲41
累計額				流動負債	3,184	2,966	218
無形固定資産	284	326	▲42	企業債	1,434	1,451	▲17
流動資産	8,076	8,358	▲282	引当金	54	55	▲1
現金預金	7,823	8,142	▲319	未払金	1,346	1,106	240
未収金	206	167	39	預り金等	350	354	▲4
その他	47	49	▲2	繰延収益（長期前受金）	9,899	9,991	▲92
				負債合計	29,441	29,690	▲249
				資本の部	令和4年度	令和3年度	増減
				資本金	21,786	21,287	499
				剰余金	6,985	6,955	30
				資本剰余金	480	473	7
				利益剰余金	6,505	6,482	23
				資本合計	28,771	28,242	529
資産合計	58,212	57,932	280	負債・資本合計	58,212	57,932	280



ポイント！！

古くなった水道管や施設などは、お金を借りて整備しているんだけど、次の世代の負担にならないように計画的に借りていかないとだね。

《用語解説》

有形固定資産

土地や建物、水道管、機械設備など

無形固定資産

刈谷田川ダムを使用する権利など

流動資産

現金・預金と1年以内に現金化できる資産

企業債

1年以内に返済する予定の額は流動負債に、1年を超えて返済する予定の額は固定負債にそれぞれ整理

未払金

1年以内に支払わなければならないもの

預り金等

税金や社会保険料、下水道使用料など預かっている現金など

繰延収益（長期前受金）

固定資産を取得する財源となった国庫補助金など

資本金

純利益や一般会計出資金などを組み入れた額

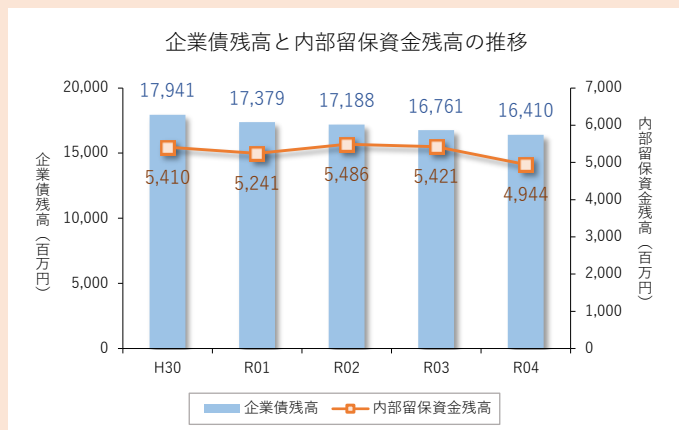
利益剰余金

純利益と企業債の返済を目的とした積立金など

貸借対照表から見た令和4年度決算について

一般的に水道事業は、水道管や施設をつくる財源の大部分を借入金に頼っていることから、企業債が多くなる傾向にあります。長岡市はこれまで蓄えてきた内部留保資金を活用して借入額の抑制に努めてきたため、右グラフのとおり企業債残高を減らすことができています。

しかし、今後は給水収益の減少や、老朽化した水道管や施設などの更新費用の増加が見込まれており、その財源として企業債の借入額が増えていくことが想定されているため、内部留保資金の状況を勘案しながら、計画的な更新に努めていかなければなりません。



(3) キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、1年間における現金の収支状況を活動区別に表した財務諸表であり、損益計算書や貸借対照表では読み取れない「現金の流れ」を確認するためのものです。令和4年度決算のキャッシュ・フロー計算書は、次のとおりです。

▽キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円、税抜き)

資金期首残高	①	8,142
令和4年3月31日時点の現金残高		
業務活動によるキャッシュ・フロー	②	2,190
事業の主たる業務活動による現金の出入り（水道料金や施設の維持管理費など）		
投資活動によるキャッシュ・フロー	③	▲ 2,225
設備投資等による現金の出入り（有形固定資産の取得費や売却代金、国庫補助金の収入など）		
財務活動によるキャッシュ・フロー	④	▲ 284
外部からの資金調達とその返済による現金の出入り（補助金、企業債の借入れや返済など）		
資金期末残高	⑤ (②+③+④)	7,823
令和5年3月31日時点の現金残高		
資金増減額	⑥ (⑤-①)	▲ 319
前年度との比較		

令和4年度の決算の状態

○キャッシュ・フロー計算書の読み方

	業務活動	投資活動	財務活動	説明
パターン①	プラス	マイナス (▲)	マイナス (▲)	本業の業績は概ね良好であり、借入金残高を減少させつつ建設改良に係る投資も実施しており、 比較的良好な経営状況にあると想定 される。
パターン②	プラス	マイナス (▲)	プラス	本業の業績は概ね良好であるが、建設改良に係る投資財源を借入金に依存し、かつその残高が増加しているため、 今後の返済負担増加が想定 される。
パターン③	マイナス (▲)	マイナス (▲)	プラス	本業の業績は厳しく、建設改良に係る投資財源に加え、日常の運転資金も借入金に依存している可能性があり、 資金繰りが非常に厳しくなっていると想定 される。

*損益計算書や貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の詳細は、[令和4年度長岡市水道事業会計決算書](#)をご覧ください。

キャッシュ・フロー計算書から見た令和4年度決算について

水をつくるための設備投資や企業債の返済を賄うだけの現金を有しており、上表のパターン①に該当していることから、経営状況は良好であるといえます。

ただ、決算が黒字であったとしても、支払い能力がなければ、倒産する恐れがあるため、事業継続のための資金が不足しないように、キャッシュ・フロー計算書を活用し、「現金の動き」の把握に努めなければなりません。

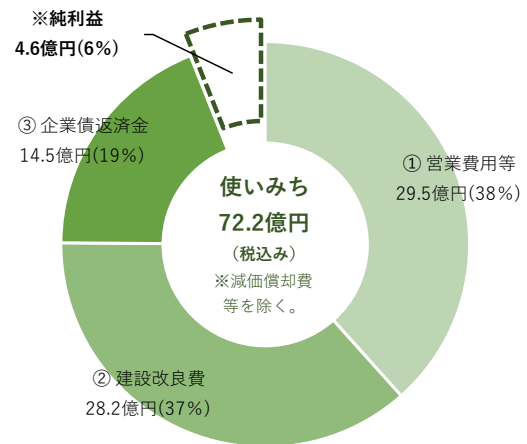
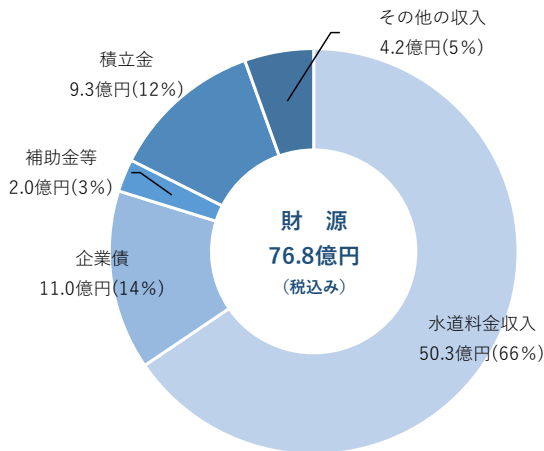
今後も引き続き現金の動きを注視し、健全経営に取り組んでいきます。

資金繰りはうまくいってるようだね！
黒字だから経営は大丈夫だという訳でなく、現金の動きにも着目する必要があるんだね。



4 水道料金とその使いみち

令和4年度の水道事業の運営における財源とその使いみちは、次のとおりです。



水道事業は、お客さまからいただいた水道料金を主な財源として運営をしています。

ただし、水道料金収入だけでは事業運営はできないため、水道管の新規布設や古い水道管の布設替え、浄水場などの施設を整備するための財源として企業債を借り入れています。

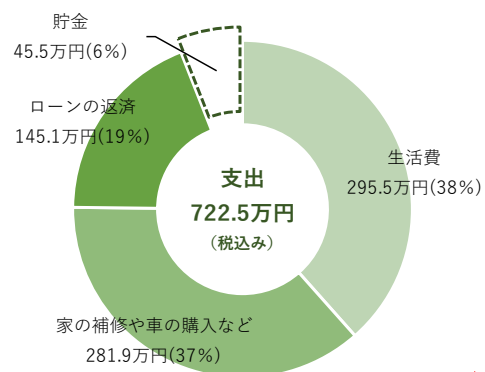
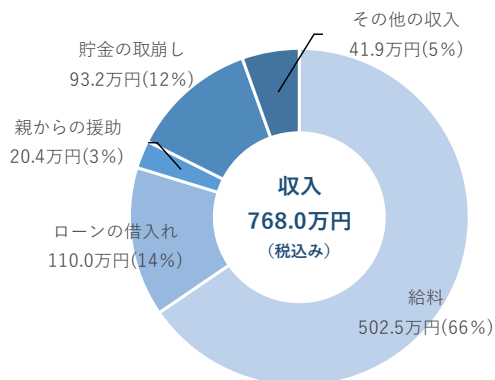
その他の収入としては、国や一般会計からの補助金のほか、積立金などがあります。

財源の使いみちとしては、大きく3つに分類されます。

- ①水をきれいにし、ご家庭などに届けるための費用
 - ②水道管の新規布設や古い水道管の布設替え、浄水場などの施設を整備するための費用
 - ③過去の工事等のために借りたお金の返済
- ※純利益は、翌年度以降の企業債の返済のために積み立てました。

◆上記のグラフを家計簿に例えてみると・・・

本来であれば、給料の範囲内で家計を賄えることが理想ですが、家の補修や車の購入にたくさんのお金が必要となりますので、不足する分をローンで補っています。これから給料が増える可能性は低いため、ローンを上手に活用したり、生活費を切り詰めたりするなどの努力をしていく必要があります。



今のところ、将来への積立をしながら、事業運営ができていくけど、これからは水道料金収入が減り、水道管の入替えや施設の整備にたくさん費用がかかるため、経営は厳しくなる見込みなんだ。
経営戦略に基づいて事業を実施し、これからも安全でおいしい水を届け続けるね！

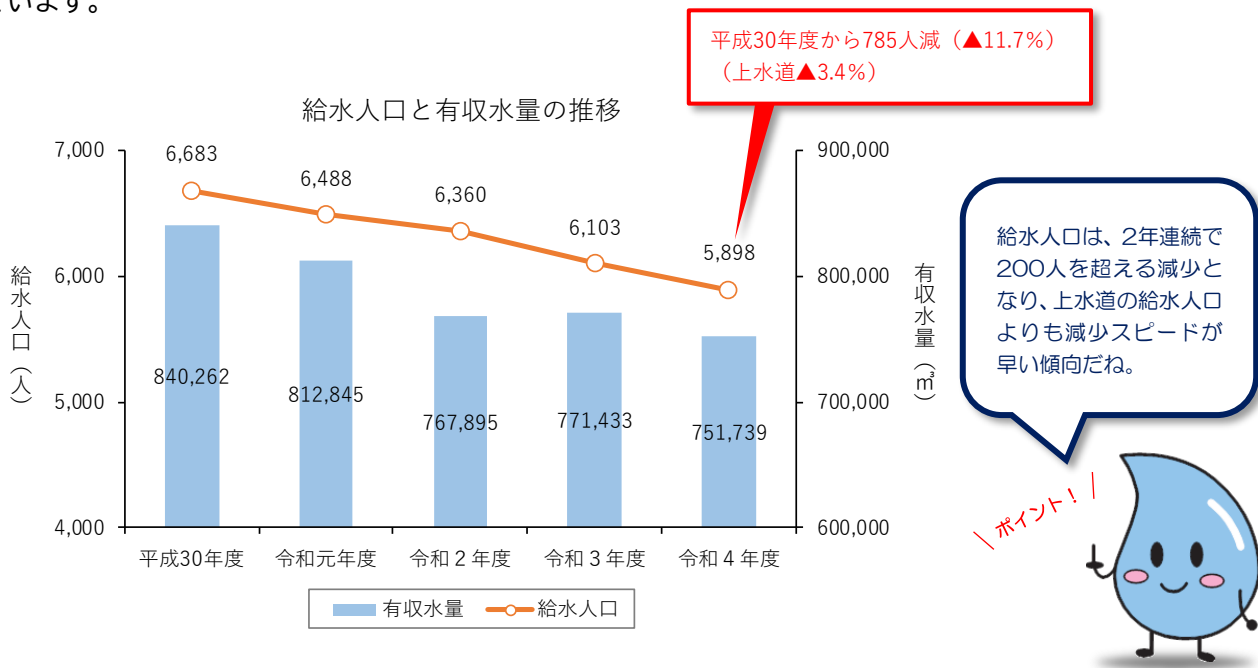




ここからは簡易水道事業の決算の概要を説明します。

1 給水状況

山古志地域、小国地域、栃尾地域及び川口地域に14地区の簡易水道（小規模水道を含む。）があります。これらの簡易水道は、主に中山間地域にあり、少子化や市外県外への転出などにより、給水人口の減少が進行しています。



生活用の使用水量は、給水人口の減少や巣ごもり需要の低下などにより減少しました。これまで新型コロナウイルス感染症の影響を受けていた営業用やプール用などが増加し、業務営業用は前年度に比べ6,724 m³増加しましたが、工場用の使用水量が減少したため、有収水量は全体で19,694 m³ (▲2.6%) 減少しました。

用途	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度増減
	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³
生活用	532,674	537,478	524,251	502,310	▲21,941
業務営業用	188,527	140,528	150,792	157,516	6,724
工場用	88,947	88,125	94,564	89,740	▲4,824
その他	2,697	1,764	1,826	2,173	347
合計	812,845	767,895	771,433	751,739	▲19,694

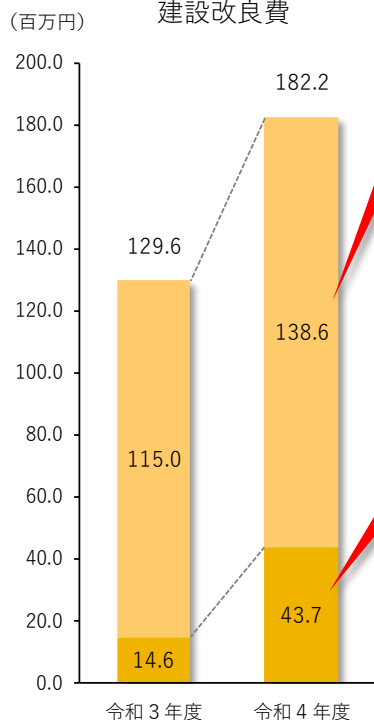
有収水量の主な用途は、やはり生活用（6割）だね。ただ、上水道に比べ人口規模が小さいので、簡易水道の有収水量は、業務営業用や工場用の使用水量で変動しやすい傾向にあるんだ。



2 水道管や施設の整備（建設改良費）

令和4年度の建設改良事業は、水道管の布設替えを実施したほか、遠方監視設備や次亜注入設備などの更新を実施しました。

建設改良費



◆水道管の更新、ポンプ場などの施設整備（量水器費除く）

漏水や濁り水を減らすため、老朽化した水道管の耐震管への布設替えや、設備などの更新を行いました。

- ・水道管布設替工事（川口地域）
- ・山古志地域簡易水道遠方監視設備更新工事（山古志地域）
- ・山古志竹沢高区配水池流量計更新工事（山古志地域）
- ・法未配水池配水流量計更新工事（小国地域）
- ・川口中央第1配水池水位計更新工事（川口地域） ほか

◆浄水場の施設整備

安全な水を安定的に供給するため、浄水場の設備などの更新工事を行いました。

- ・八王子浄水所次亜注入設備更新工事（小国地域）
- ・新山浄水所電気設備更新工事（栃尾地域）
- ・中山浄水場取水流量計更新工事（川口地域）
- ・西倉導水ポンプ室ほか計装設備更新工事 ほか

3 財務状況

(1) 損益計算書

地方公営企業の経営は、独立採算制を建前としていますが、簡易水道事業は給水人口が少ないことから、給水収益だけでは費用を賅うことができず、営業損失が生じています。この収支不足分を補うため、一般会計から補助金の交付を受けて事業運営を行っています。

▽損益計算書

（単位：百万円、税抜き）

科 目	令和4年度	令和3年度	増 減
営業収益 ① (皆さまからいただいた水道料金などの収益)	131	135	▲4
営業費用 ② (きれいな水を作り、お届けするための費用など)	443	423	20
営業損失 ③ (①－②)			
通常業務活動の損益の結果	312	288	24
営業外収益 ④ (一般会計からの補助金など)	364	352	12
営業外費用 ⑤ (企業債の借入れに伴う利息などの費用)	20	25	▲5
経常利益 ⑥ (③＋④－⑤)			
通常業務活動の損益の結果に加えて資金調達等に関する損益の結果	32	39	▲7
特別利益 ⑦	0	0	0
特別損失 ⑧	5	5	0
純利益 ⑨ (⑥＋⑦－⑧)			
1年間のすべての損益の結果	27	34	▲7

(2) 貸借対照表

水道管や設備などの施設更新は、企業債を借り入れて実施しており、令和4年度は1億7,730万円の企業債を借り入れました。これまでの企業債は、元利均等※による方法で返済しており、令和4年度は返済額のうち元金の割合が大きくなっていることから、企業債残高は前年度より1,200万円減少しました。

(単位：百万円、税抜き)

▽資産がどのような状態で、いくらあるのか				▽資産がどのような財源でつくられたのか			
資産の部	令和4年度	令和3年度	増減	負債の部	令和4年度	令和3年度	増減
固定資産	4,673	4,744	▲71	固定負債	1,651	1,663	▲12
有形固定資産	10,243	10,227	16	企業債	1,629	1,649	▲20
有形固定資産減価償却	▲5,627	▲5,543	▲84	引当金	22	14	8
累計額				流動負債	231	292	▲61
無形固定資産	57	60	▲3	企業債	198	190	8
流動資産	148	207	▲59	引当金	4	4	0
現金預金	113	182	▲69	未払金	29	97	▲68
未収金	34	24	10	預り金等	0	1	▲1
その他	1	1	0	繰延収益(長期前受金)	1,716	1,800	▲84
				負債合計	3,598	3,755	▲157
				資本の部	令和4年度	令和3年度	増減
				資本金	1,110	1,110	0
				剰余金	113	86	27
				資本剰余金	16	16	0
				利益剰余金	97	70	27
				資本合計	1,223	1,196	27
資産合計	4,821	4,951	▲130	負債・資本合計	4,821	4,951	▲130

※ 元利均等とは、毎期の返済元金と利息額との合計額が同額となる返済方法です。この方法は、返済当初は利息の割合が大きく、返済が進むにつれて元金の割合が大きくなります。

(3) キャッシュ・フロー計算書

令和4年度の業績は概ね良好であり、企業債残高を減少させつつ建設改良に係る投資も実施したことから、良好な経営状況だったといえます。(P6「キャッシュ・フロー計算書の読み方」参照)

▽キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円、税抜き)

資金期首残高	①	182
令和4年3月31日時点の現金残高		
業務活動によるキャッシュ・フロー	②	166
事業の主たる業務活動による現金の出入り(水道料金や施設の維持管理費など)		
投資活動によるキャッシュ・フロー	③	▲223
設備投資等による現金の出入り(有形固定資産の取得費や売却代金、国庫補助金の収入など)		
財務活動によるキャッシュ・フロー	④	▲12
外部からの資金調達とその返済による現金の出入り(補助金、企業債の借入れや返済など)		
資金期末残高	⑤ (②+③+④)	113
令和5年3月31日時点の現金残高		
資金増減額	⑥ (⑤-①)	▲69
前年度との比較		

※損益計算書や貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の詳細は、[令和4年度長岡市簡易水道事業会計決算書](#)をご覧ください。

簡易水道事業は、給水人口に比べて施設がたくさんあるから、お金がかかるんだ。そのうえ、物価高騰などの影響も続きそうだから、少しでも節約できるように努力していかなきゃだね。

